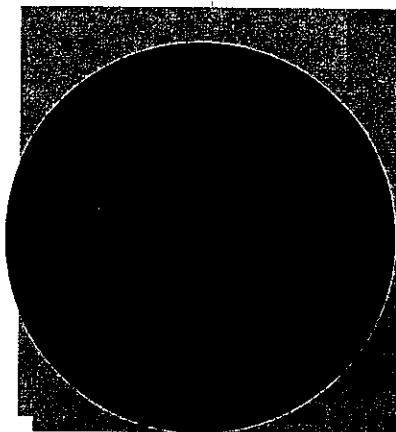
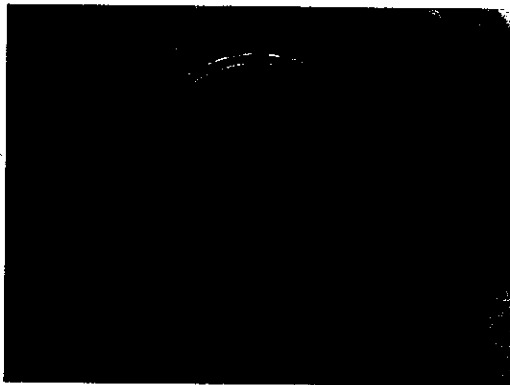


カンキツの スリップス類対策

佐賀県果樹試験場 病害虫研究担当
近藤知弥



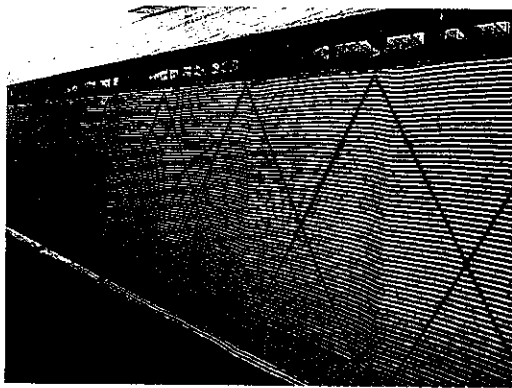
▲写真1 ヒラズハナアザミウマ成虫



▲写真2 スリップス類による被害
(ハウスミカンの被害痕)

ハウスミカンでは着色期から収穫終了まで、果実と果実、果実と葉、果実と枝等重なり合った部分にスリップス類が寄生して、果実表面をリング状または円状に、ひどくなると果面全体を加害します。加害された部分は白変し、その後褐変して腐敗するため問題となります。

ハウスミカンを加害するスリップス類は、主にネギアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ、ハナアザミウマ類（ヒラズハナアザミウマ、ハナアザミウマ等）です。これらスリップス類の成虫は、ハウ

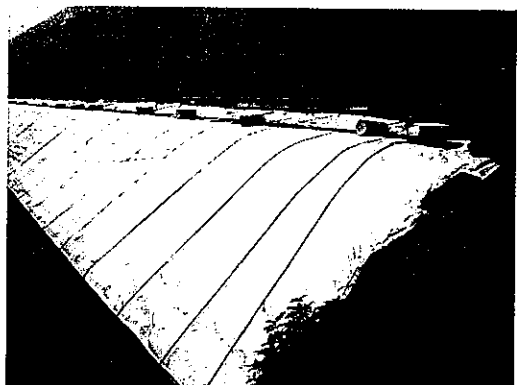


▲写真3 ハウスサイドに設置した光反射シート織込ネット

ネギアザミウマはネギ類で、ミカンキイロアザミウマ、ハナアザミウマ類は植物の花で特に繁

対策1 ハウス内外の スリップス類の繁殖場所 をなくす

スサイド開放以降収穫終了までハウス外からハウス内に継続して侵入します。そのため、薬剤防除だけではなく、ハウス内外のスリップス類の繁殖場所をなくし、ハウス内へ侵入させないようにすることも重要です。対策は以下のとおりです。



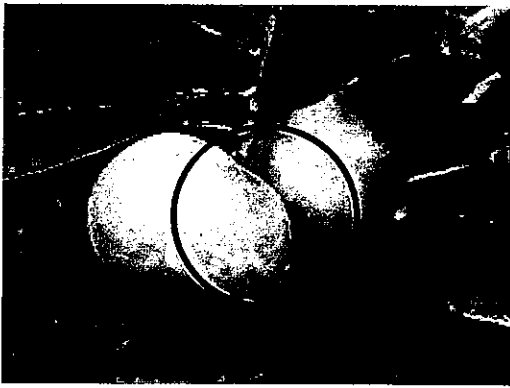
▲写真4 ハウス周囲に被覆した光反射シート

ハウス開口部に、スリップス類に対して侵入抑制効果のあるアルミ蒸着シート織込ネット

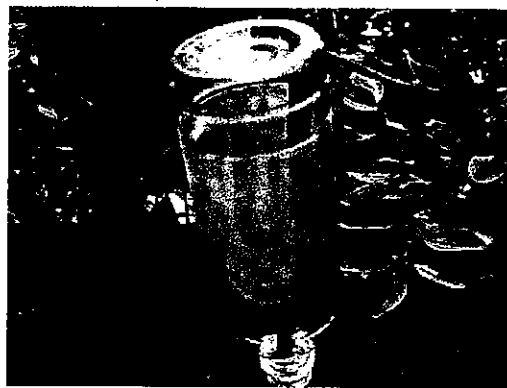
対策2 スリップス類の ハウス内への侵入を防ぐ

殖しやすいため、ハウスサイドを開放する前から収穫終了までハウス内外の除草を行い、スリップス類の繁殖場所をなくします。

また、収穫が終了するまではスリップス類が繁殖する野菜類や花き類をハウス内や周囲に植えないようにします。



▲写真6 果実同士が接している部分
(この部分にスリップス類の寄生が多い)



▲写真5 黄色粘着トラップ
(スリップス類を誘殺して種類を調べる)

#500 (商品名: トレネット等) や光反射シート織込ネット (商品名: スリムホワイト等) を設置します。また、ハウス周囲の地表面を幅1〜2mの光反射シート (商品名: タイベック等)

で被覆しても、スリップス類のハウス内への侵入を抑制できません。また、ハウスに紫外線カットフィルム (UVカットフィルム、商品名: クリントートGM等)

を被覆することも、スリップス類の侵入を抑制するのに有効です。

対策3 ハウス内に侵入したスリップス類の防除

▼表1 スリップス類防除薬剤 (ハウスミカン)

| 薬剤名 | 希釈倍数 | 収穫前日数 | 使用回数 | |
|-------------|-------------|--------|--------|------|
| ネギアザミウマ | ハチハチフロアブル | 2,000倍 | 前日まで | 2回以内 |
| | スピノエースフロアブル | 4,000倍 | 7日前まで | 2回以内 |
| ミカンキイロアザミウマ | コテツフロアブル | 4,000倍 | 前日まで | 2回以内 |
| | ダーズバンDF | 3,000倍 | 14日前まで | 2回以内 |
| | スピノエースフロアブル | 4,000倍 | 7日前まで | 2回以内 |

▼表2 スリップス類防除薬剤 (施設キンカン)

| 薬剤名 | 希釈倍数 | 収穫前日数 | 使用回数 | |
|-------------|-------------|--------|-------|------|
| ネギアザミウマ | ハチハチフロアブル | 2,000倍 | 前日まで | 2回以内 |
| | スピノエースフロアブル | 4,000倍 | 7日前まで | 2回以内 |
| ミカンキイロアザミウマ | コテツフロアブル | 4,000倍 | 前日まで | 2回以内 |
| | スピノエースフロアブル | 4,000倍 | 7日前まで | 2回以内 |

ハウス内に侵入したスリップス類は、薬剤で防除します。ハウス内へのスリップス類の侵入は、ハウス外側の開口部付近の果実と果実が重なり合った部分(この部分にスリップス類が寄生している場合が多い)を観察することを確認でき

ます。

スリップス類の防除を行う場合、ネギアザミウマとミカンキイロアザミウマでは効果の高い薬剤が異なるため注意します。スリップス類の種類を確認するためには、開口部付近に青色および黄色の粘着板 (商品名: ホリバー) や水色または黄色の粘着シート (商品名: ITシート) を使った粘着トラップを設置して、スリップス類を誘殺します。誘殺されたスリップス類は、普及センターや試験場等で種類を確認してもらいます。

○施設キンカンのスリップス対策

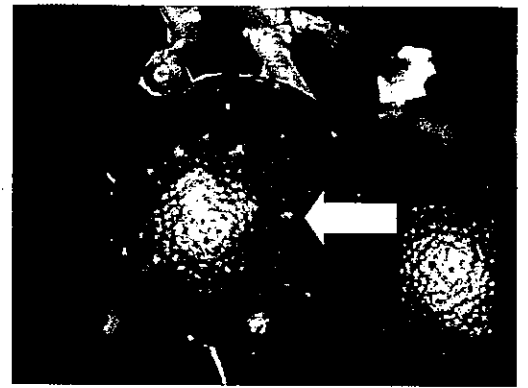
施設キンカンでは、開花期のスリップス類による加害が問題となります。スリップス類 (ミカンキイロアザミウマ等) が果面を加害すると、加害部分がコルク化して少突起状となり、外観が損なわれて商品価値が低下します。また、チャノキイ

▼表3 露地カンキツのチャノキイロアザミウマ防除薬剤

| 薬剤名 | 希釈倍数 | 収穫前日数 | 使用回数 | |
|-----------------------|-------------|--------|--------|------|
| チャノキイロアザミウマのみ防除 | ベストガード水溶剤 | 1,000倍 | 7日前まで | 3回以内 |
| | アドマイヤーフロアブル | 2,000倍 | 14日前まで | 3回以内 |
| ミカンサビダニと同時防除 | コテツフロアブル | 4,000倍 | 前日まで | 2回以内 |
| | ハチハチフロアブル | 2,000倍 | 前日まで | 2回以内 |
| ゴマダラカミキリ、カイガラムシ類と同時防除 | ダントツ水溶剤 | 2,000倍 | 7日前まで | 2回以内 |
| | モスピラン水溶剤 | 2,000倍 | 14日前まで | 3回以内 |

▼表4 露地カンキツのハナアザミウマ類防除薬剤

| 薬剤名 | 希釈倍数 | 収穫前日数 | 使用回数 |
|-------------|--------|-------|------|
| ハチハチフロアブル | 2,000倍 | 前日まで | 2回以内 |
| スピノエースフロアブル | 4,000倍 | 7日前まで | 2回以内 |



▲写真7 施設キンカンのスリップス類による被害
(開花期のスリップス類の加害部位がコルク化して小突起状になる)

ロアザミウマによる被害も発生します。

防除時期は、一番花開花期の六月下旬、二番花開花期の七月中旬です。ただし、三番花以降も着果させる必要がある場合は防除を行います。チャノキイロアザミウマは多発生した場合、防除を行います。防除薬剤は表二のとおりです。

○露地カンキツのスリップス対策

アセフェート水和剤(商品名:オルトラン水和剤、ジエイエース水溶剤等)とその混合剤は、今春以降には「かんきつ」の登録が削除される予定のため、本年の防除には使用しないようにします。

露地カンキツでは、チャノキイロアザミウマが問題となります。チャノキイロアザミウマが六〜七

月に果実を加害した場合、果梗部に灰色〜灰褐色のリング状の傷が生じます。これを前期被害と呼びます。八〜九月に加害した場合、果頂部に灰褐色〜褐色の傷が生じます。これを後期被害と呼びます。

チャノキイロアザミウマの防除は、六月中下旬、七月中旬、八月中下旬に行います。特に六月中下旬の防除は前期被害対策として、八月中下旬の防除は後期被害対策として重要です。中晩柑は本種による被害が多いため、五月中下旬にも防除を行います。使用する薬剤は表三のとおりです。

なお、防風樹として植栽されているイヌマキ、サンゴジュ等はチャノキイロアザミウマの発生源となります。

また、マサキ、サザンカ、ツバキ、チャ等も同様に発生源となるため、周辺にこれらがある圃場では、チャノキイロアザミウマの防除をきちんと行います。

昨年は、露地の早熟系早生温州を中心にハナアザミウマ類による着色期以降の果実被害が問題となりました。八月以降の気象が高温乾燥で推移し、本虫の増殖に好適な条件が続いて発生が多くなったためと考えられ、過去、昨年と同様に夏期に高温乾燥で推移した年に、本虫による被害が発生したことがあります。

ハナアザミウマ類は、ハウスミカンと同様に果実表面をリング状または円状に、ひどくなると果面全体を加害します。加害された果面は白変し、その後褐変して腐敗するため問題となります。

八月以降の気象が高温乾燥で推移した場合、こまめに圃場内の果実と果実が重なっている部分を観察してスリップス類の発生を確認するか、果実に被害が発生しているのを確認して防除を行います。防除には表四の薬剤を使用します。早期発見、早期防除が重要です。